

阪南町埋蔵文化財報告 IX

阪南町埋蔵文化財発掘調査概要 IV



1989年3月

阪南町教育委員会

## は　し　が　き

大阪府南部に位置する阪南町は、その位置的性格から住宅開発が早くより進められてきました。それに加え、周知のとおり関西新空港建設工事が泉州沖で着々と進められており、阪南町でも埋め立て用の土砂採取事業が行われています。また民間における開発行為も、ここ1、2年で急増しており、阪南町教育委員会では、これらの開発行為に伴う工事の事前に発掘調査を実施し、埋蔵文化財の記録保存措置を行ってきました。それと同時に昨年より2カ年計画で町内の遺跡の詳細な分布調査も実施しました。この分布調査により、新たにいくつかの遺跡が把握され、町内の遺跡数も50カ所を越えるに至りました。

今年度は、馬川遺跡、箱作今池遺跡、黒田南遺跡等での発掘調査を実施しました。とりわけ馬川遺跡では、溝を検出した他、サヌカイト片も出土しており、当時における集落の存在が十分に予想されます。

ここに今年度の調査成果を報告します。文化財の調査は教育委員会社会教育課で行っておりますが、より多くの方々に文化財を理解していただき、また活用していただきたいと願っています。平成元年11月3日に開館予定の阪南町立文化センターにおいても、これら文化財の展示を予定していますので、ご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが調査に御協力をくださった土地所有者ならびに関係者の方々に深く感謝いたしますと共に、今後のご理解、ご協力をお願いいたします。

平成元年3月

阪南町教育委員会

教育長 庄司 菊太郎

## 例　　言

1. 本書は、阪南町教育委員会が、町内に所在する埋蔵文化財包蔵地内において、開発行為に先立って実施した発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、阪南町教育委員会社会教育課三好義三を担当者として行った。
3. 調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
4. 本書の編集および執筆は、調査参加者及び三好が行った。
5. 本調査における記録は、実測図、写真、カラースライド等に保存されている。阪南町教育委員会で保管しているので、広く活用されることを希望する。

## 目 次

1章	調査に至る経過	1
2章	調査成 果	
1節	田山遺跡	1
2節	馬川遺跡	8
3節	黒田南遺跡	10
4節	箱作今池遺跡	12
5節	正方寺遺跡	24
6節	旧 街 道	25
3章	ま と め	27

## 挿 図 目 次

第1図	阪南町内埋蔵文化財包蔵地分布地図	2
第2図	田山遺跡 調査区位置図	3
第3図	田山遺跡 87-1区 断面図位置図	4
第4図	田山遺跡 87-1区 断面図	4
第5図	田山遺跡 87-1区 出土遺物	5
第6図	田山遺跡 87-1区 出土遺物	6
第7図	田山遺跡 87-1区 出土遺物	7
第8図	馬川遺跡 88-1区 トレンチ位置図	8
第9図	馬川遺跡 調査区位置図	8
第10図	馬川遺跡 88-1区 トレンチ平面図・西側断面図	9
第11図	馬川遺跡 88-1区 出土遺物	9
第12図	馬川遺跡 88-1区 出土遺物	10
第13図	黒田南遺跡 88-1区 トレンチ位置図	10
第14図	黒田南遺跡 調査区位置図	11
第15図	黒田南遺跡 88-1区 出土遺物	12
第16図	箱作今池遺跡 調査区位置図	13
第17図	箱作今池遺跡 87-5区 B調査区設定図	13
第18図	箱作今池遺跡 87-5区 B調査区平面図・北側断面図	14
第19図	箱作今池遺跡 87-5区 A調査区西側断面図	14
第20図	箱作今池遺跡 87-5区 A調査区 出土遺物	15
第21図	箱作今池遺跡 87-5区 A調査区 出土遺物	15
第22図	箱作今池遺跡 87-5区 A調査区 出土遺物	16
第23図	箱作今池遺跡 87-5区 A調査区 出土遺物	17
第24図	箱作今池遺跡 88-2区 A調査区平面図・断面図	18
第25図	箱作今池遺跡 88-2区 B調査区平面図・断面図	18
第26図	箱作今池遺跡 88-2区 C調査区断面図	19
第27図	箱作今池遺跡 88-2区 A調査区 出土遺物	19

第28図	箱作今池遺跡	88-2区	B調査区	出土遺物	19
第29図	箱作今池遺跡	88-2区	B調査区	窯跡内出土遺物	20
第30図	箱作今池遺跡	88-2区	B調査区	出土遺物	20
第31図	箱作今池遺跡	88-2区	C調査区	出土遺物	20
第32図	箱作今池遺跡	88-2区		出土遺物	21
第33図	箱作今池遺跡	88-2区		出土遺物	22
第34図	箱作今池遺跡	87-1区	トレンチ設定図		23
第35図	箱作今池遺跡	87-1区	トレンチ断面図		23
第36図	正方寺遺跡	88-1区		出土遺物	24
第37図	正方寺遺跡	88-1区	トレンチ設定図		24
第38図	浜街道（孝子越街道）		A調査区位置図		25
第39図	浜街道（孝子越街道）		B調査区位置図		25
第40図	浜街道（孝子越街道）		B調査区トレンチ設定図		25
第41図	信長街道	A調査区	トレンチ設定図		26
第42図	信長街道	B調査区	トレンチ設定図		26
第43図	信長街道		調査区位置図		26

## 図 版 目 次

図版 1	田山遺跡全景・田山遺跡 87-1区	出土遺物
図版 2	馬川遺跡	88-1区 調査区全景・出土遺物
図版 3	黒田南遺跡	88-1区 調査区全景・出土遺物
図版 4	箱作今池遺跡 87-5区	遺物出土状況
図版 5	箱作今池遺跡 87-5区	B調査区全景・A調査区出土遺物
図版 6	箱作今池遺跡 88-2区	A調査区全景・C調査区全景
図版 7	箱作今池遺跡 88-2区	B調査区蛸壺焼成遺構
図版 8	箱作今池遺跡 88-2区	B調査区全景・出土遺物

## 第1章 調査に至る経過

阪南町は、大阪府の南部に位置し、関西新空港の建設や大阪のベッドタウンとして近年様々な開発行為が急増している。このため、埋蔵文化財包蔵地内の土木工事に伴う届出（通知）件数も増加しており、昭和60年度に7件であった届出件数が、翌61年度には24件、62年度と63年度には、それぞれ約50件にのぼった。

このような届出に対し、阪南町教育委員会では、届出者の方々の協力を得、発掘調査等を実施した。ここでは田山遺跡、箱作今池遺跡をはじめとし、町内で実施した遺跡6カ所の調査の概要報告を掲載した。後述のように、比較的小規模の調査ばかりであったが、箱作今池遺跡内の調査においては、蛸壺の窯跡と思われる遺構を検出した事等、かなりの成果があった。

なお今後しばらくは、発掘調査件数は増加を続けるであろうと思われる。

## 第2章 調査成果

### 1節 田山遺跡

#### 87-1区

##### 1. 位置および調査の概略（第2図、図版1）

田山遺跡は、本町の西部に位置しており、以前より遺物の散布等が知られていたが、昭和53年に海水浴場建設に伴う道路設置工事が実施されることになり、この工事の事前に行われた発掘調査により確認された遺跡である。この調査では、縄文時代の石鏃をはじめ、古代の製塩土器、中世以降の蛸壺、中国製陶磁器等が出土し、当時における漁湧集落等の存在が推定されている。

今回の調査は、通称水道道に町の水道管が新設されることになり、その工事に伴うもので、遺跡の東端部にあたる。

第一次調査は、昭和62年4月に工事予定区間約170m内に1×1.5mのトレ

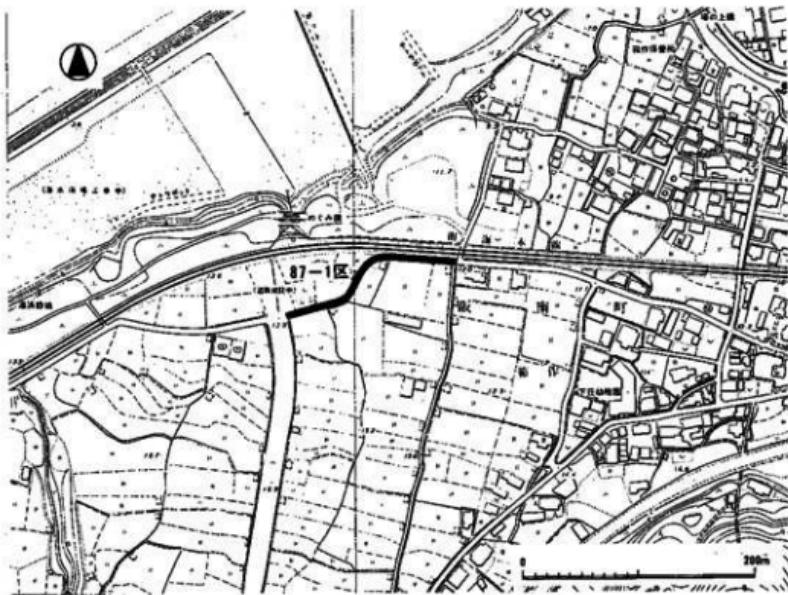


第1図 阪南町内埋蔵文化財包蔵地分布地図

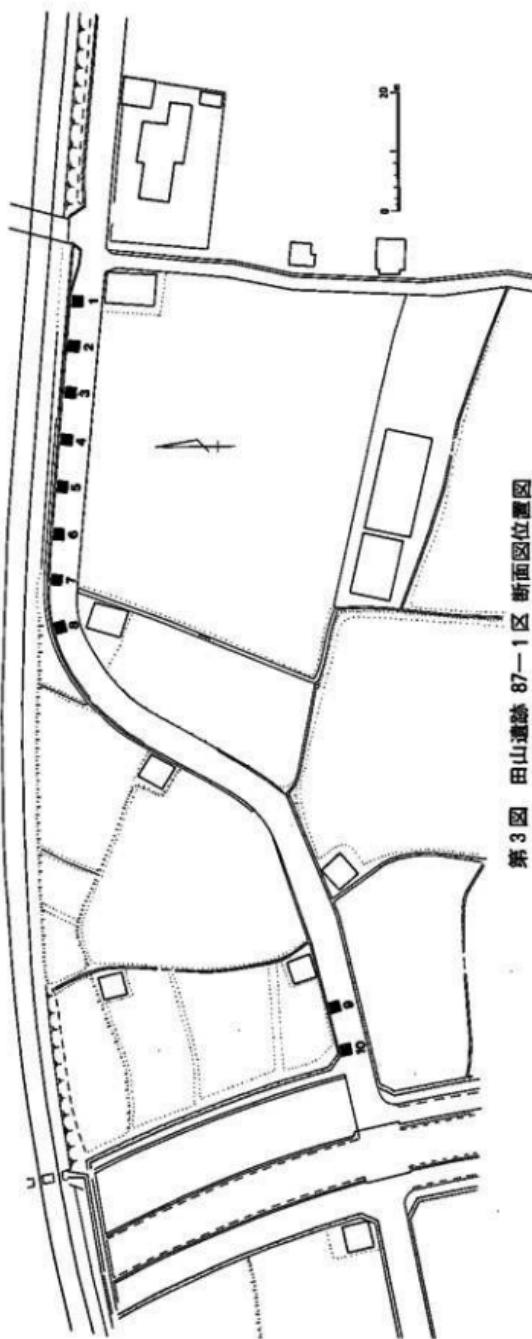
ンチを7ヵ所設定し実施した。この調査により遺物包含層の確認された東側部分約60mと西側部分約20mについて、第2次調査を行った。調査は、アスファルトおよび盛土部分をバックホウで除去し、以下の層については、人力による掘削を行った。

調査区内における土層断面図は4図のとおりである。一部で以前の工事等による攪乱がみられたが、遺物包含層がほぼ調査区全体で確認された。No.4~6付近で、数状の溝状遺構を検出したが、確認面からの深さが3~5cm程度であり、遺物の包含も認められなかった。No.6~8付近では、後述するように、中世期の蛸壺が大量に検出された。

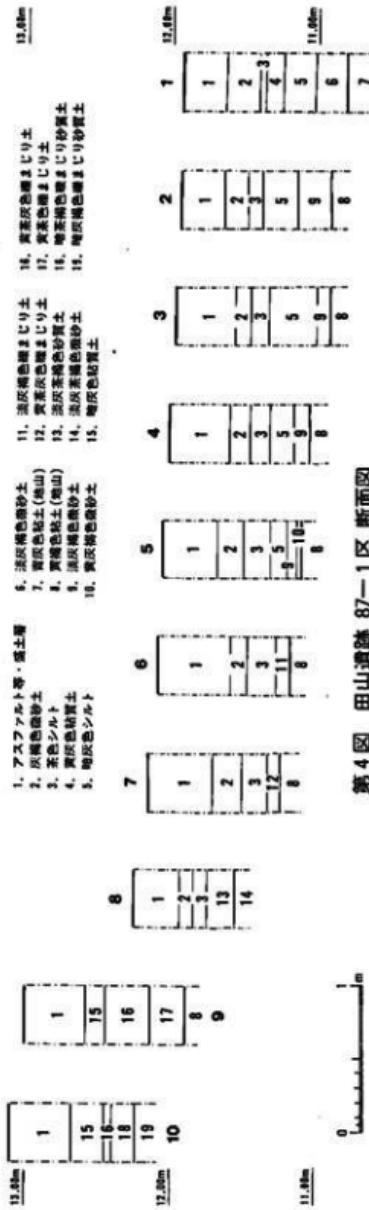
このように前回の調査においてと同じく、今回の調査においても中世期の蛸壺が検出されたことにより、当時において比較的大きな集落がこの地に営まれていたと考えられる。



第2図 田山遺跡 調査区位置図



第3図 田山遺跡 87-1区 断面図位置図



第4図 田山遺跡 87-1区 断面図

## 2. 遺物

### (第5図、図版1)

1～3は土師器の小皿である。1の内面にはヨコナデがみられる。4、5は土師質管状土錘の破片である。

6～9は瓦器塊で、7の内外面にはヨコナデが、8の体部外面には指圧痕が、9の内面にはヘラミガキ痕がみとめられる。また口径の大きさから、6～8は14世紀、9は13世紀頃のものと思われる。

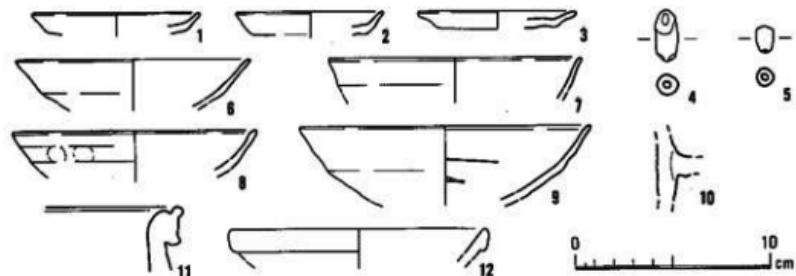
10は瓦質羽釜の鍔部の破片である。鍔は貼り付けによるもので、上下にヨコナデがみられ、鍔の下には板状工具によるナデが施されている。

11は常滑の甕の口縁部破片である。12は白磁の碗の口縁部で玉縁状になつておらず、11世紀中期～12世紀初期に製作されたものと思われる。

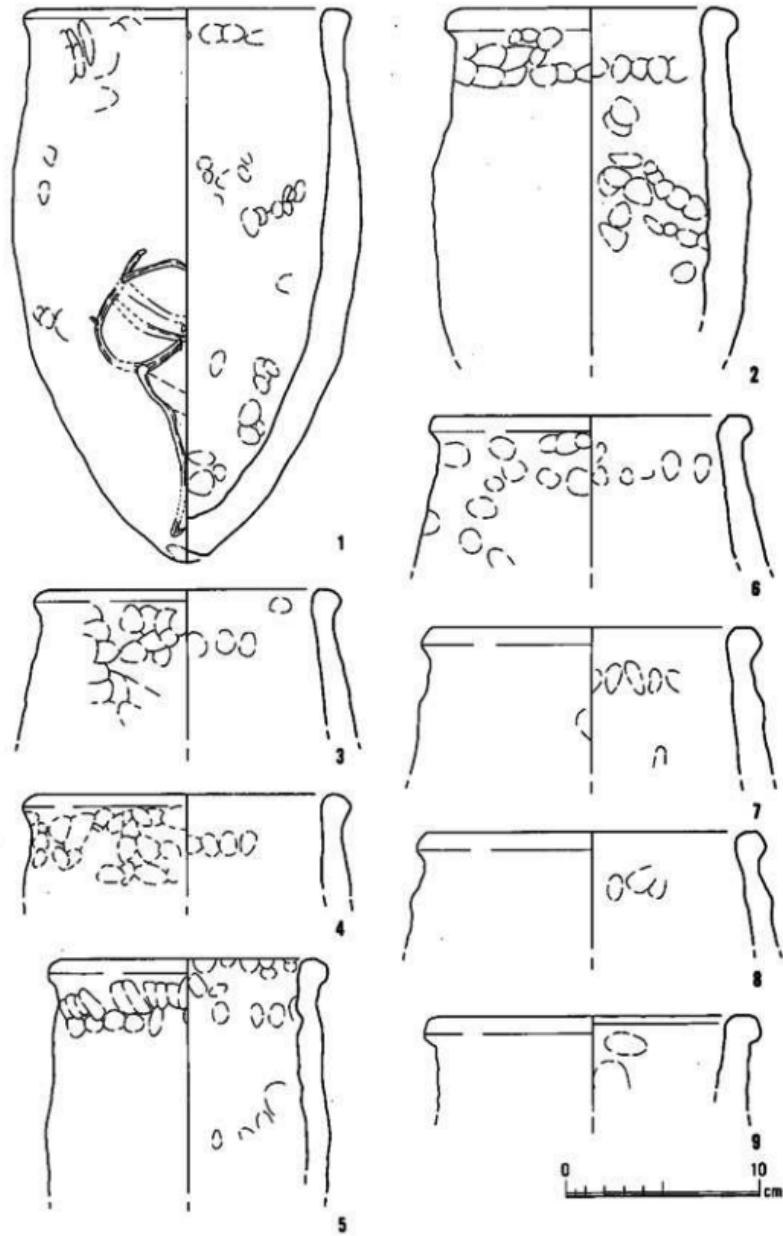
### (第6・7図、図版1)

1～20は土師質の蛸壺で、砲弾形と呼ばれるその形から、中世期に製作されたものと思われる。

1～12にみられるように口縁部は玉縁状になっており、頸部は繩を巻きやすくつるためにくびれている。一方底部については、1ならびに17～20にみられるように乳頭状に尖っており、現代の蛸壺とは異なる特徴を持っている。また内外面については、1ならびに13～16の腹部外面にヘラ記号がみられる。このヘラ記号については、<sup>財</sup>大阪文化財センターが実施した先の調査で検出された蛸壺と共通の記号がみられる。1、15にみられる記号「小判状の円に2本の横線が入る」がそれにあたる。同一工人あるいは所有者を示すものかどうかであろうが、やはり先の調査報告でも述べられているように「(記号が一種



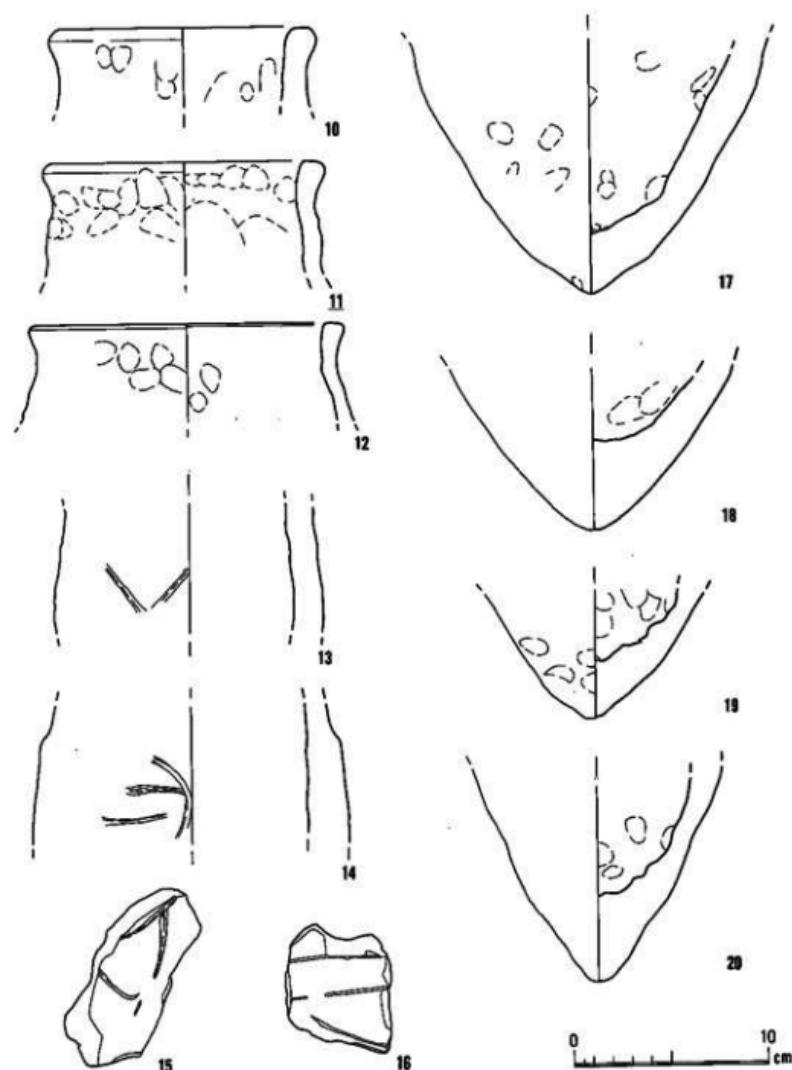
第5図 田山遺跡 87-1区 出土遺物



第6図 田山遺跡 87-1区 出土遺物

だけでなく) 多岐多様」であるため、所有者を表わしているものと思われる。また、ほとんどの遺物に指圧痕がみとめられ、それらは頸部や底部の内外面に顯著である。

『田山遺跡』 勘定大阪文化財センター 1983年



第7図 田山遺跡 87-1区 出土遺物

## 2節 馬川遺跡

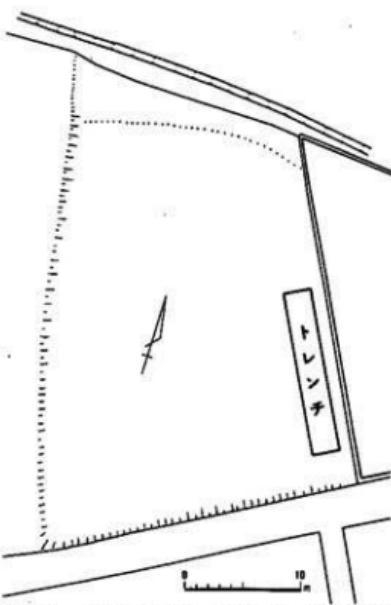
### 88-1区

#### 1. 位置および調査の概略

(第8・9・10図、図版2)

馬川遺跡は、阪南町の北東部に位置する。分布調査により新たに周知された遺跡であるが、以前より付近で土師器、須恵器をはじめとする土器片、サヌカイト片等の散布が知られていた。このため、遺跡の存在が充分に予想されていた。

今回の調査は、民間の宅地開発事業に先立ち実施したものである。事業地内の中、工事等により遺構等に影響があると思われる道路部分の調査を行った。



第8図 馬川遺跡 88-1区 トレンチ位置図

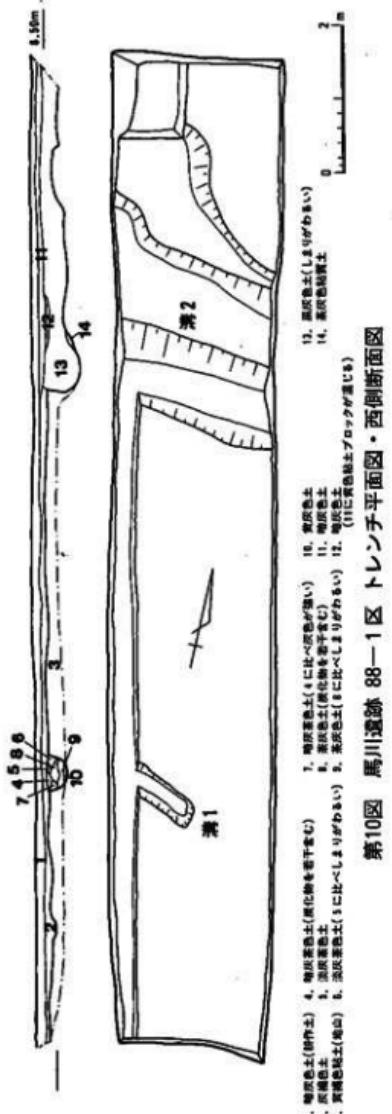


第9図 馬川遺跡 調査区位置図

## 2. 遺構(第10図)

### 溝 1

調査区中央で検出した深さ約0.3m、幅約0.5mの溝で、ほぼ東西方向に伸びる。サヌカイトの剥片を検出した。



### 溝 2

調査区北端部で検出した。埋土中よりサヌカイトの剥片等を検出した。

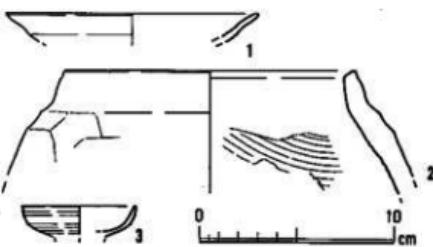
## 3. 遺物

### (第11図、図版2)

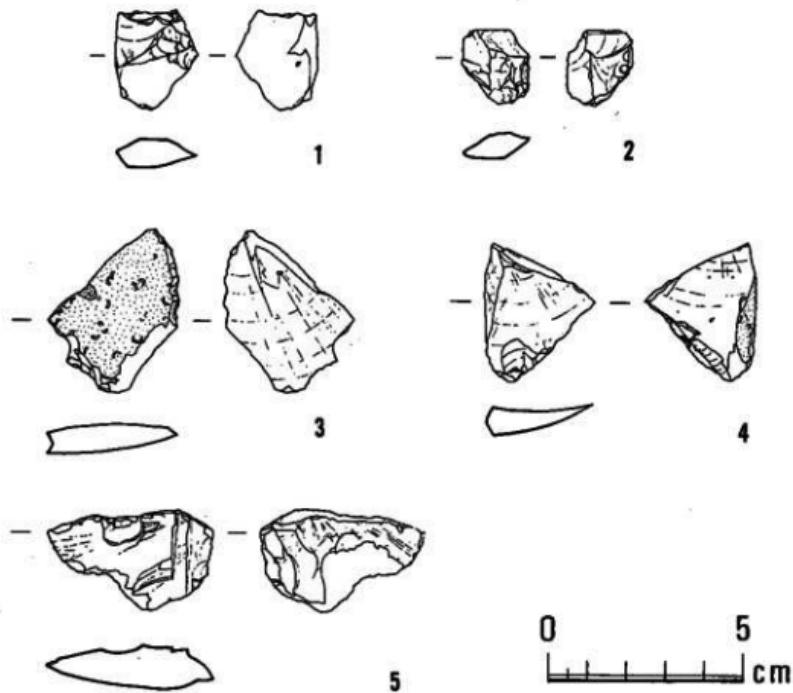
1は先述の溝2から検出された土師器の皿で、内外面にヨコナデがみられる。2は土師質の壺で、外面はヘラ削り、内面はハケ調整の後、口縁部を含む全体にナデ調整が施されている。3は施釉磁器の紅皿と思われる。内外面にヨコナデが施されている。

### (第12図、図版2)

すべてサヌカイトの剥片であり、1、2は溝1から、3～5は溝2から検出された。3、4は縦長剥片で、3の背面は自然面をなす。5は横長剥片で、背面に打瘤裂痕を有する。



第11図 馬川遺跡 88-1区 出土遺物



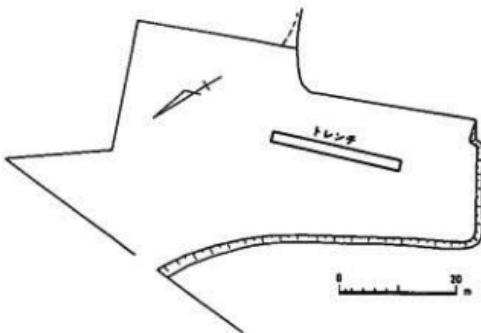
第12図 馬川遺跡 88-1区 出土遺物

### 3 節 黒田南遺跡

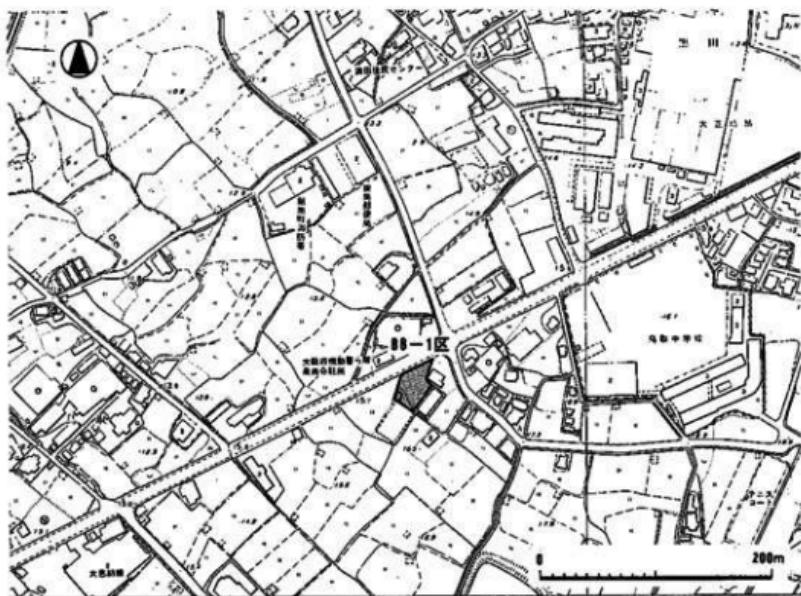
#### 88-1区

##### 1. 位置および調査の概略 (第13・14図、図版3)

黒田南遺跡は、阪南町の北東部に位置する。昭和62年度に実施された分布調査では、瓦器片等の散布が確認されて



第13図 黒田南遺跡 88-1区 トレンチ位置図



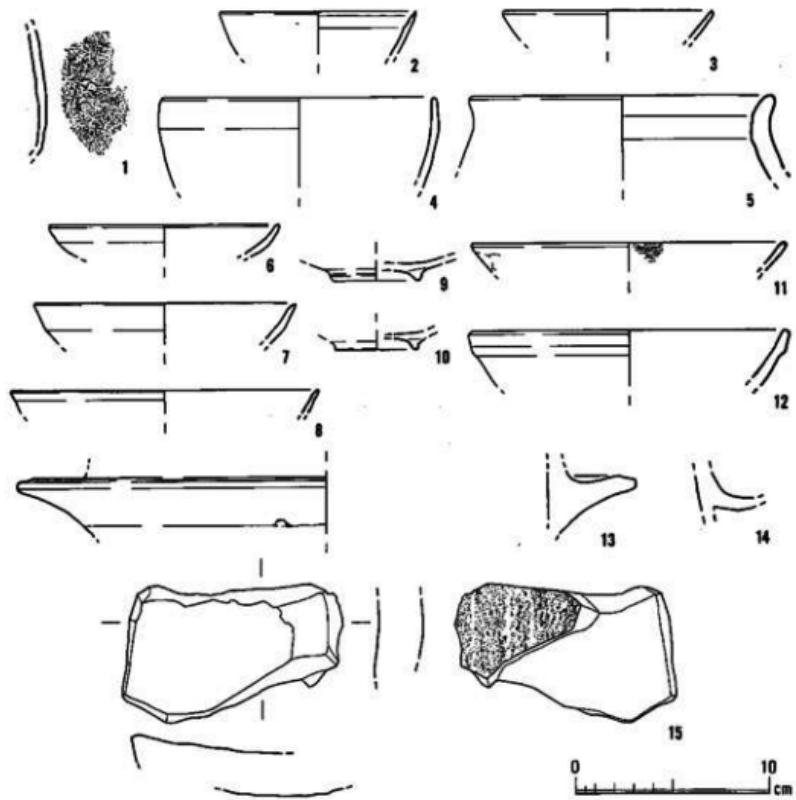
第14図 黒田南遺跡 調査区位置図

いた。

調査は大型店舗建設に先立ち実施した。計画建物の部分に23m×2mのトレンチを設定し、盛土約1mを機械によって掘削した後、人力掘削を行った。遺構は確認されなかったが、以下に述べる遺物が検出され、遺物包含層の存在が認められた。調査区周辺における生活跡の存在が想定される。

## 2. 遺 物 (第15図、図版3)

1は弥生式土器と思われる破片で、外面にタタキ痕がみとめられる。2～5は土師器・土師質の壺および壺である。6～11は瓦器の皿および壺である。6は内面に、7は口縁部から外面にかけて、8は内外面にそれぞれヨコナデが施されている。9、10の高台は貼り付けによるものである。11の内面にはヘラミガキ、口縁部にはヨコナデが施され、外面には指圧痕がみとめられる。13、14は瓦質の羽釜である。13の鉢上面にはナデ調整がみとめられる。15は平瓦である。凹面に布目痕、凸面には繩叩き痕がみられる。



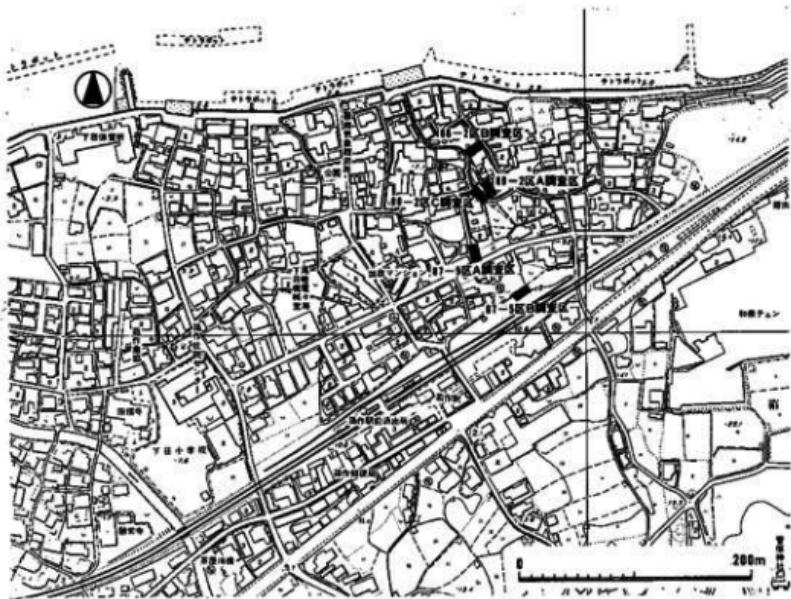
第15図 黒田南遺跡 88-1区 出土遺物

#### 4節 箱作今池遺跡

##### 87-5区

###### 1. 位置および調査の概略（第16図、図版5）

箱作今池遺跡は、本町の北西部に位置している。現在の箱作地区の市街地とほぼ同じ範囲で遺跡が拡っている。今回の調査は、集落内を流れる小河川の改修工事に伴い実施された。A調査区では、後述のように完形の瓦器壇や須恵器壺等が出土し、B調査区では、ピットが數カ所検出された。



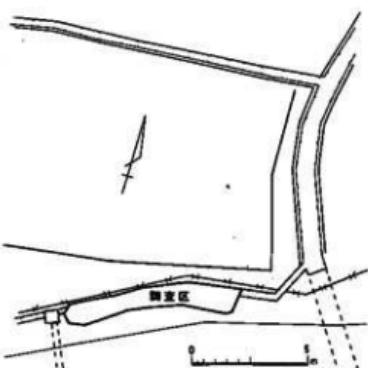
第16図 箱作今池遺跡 調査区位置図

## 2. 遺 物 (図版5)

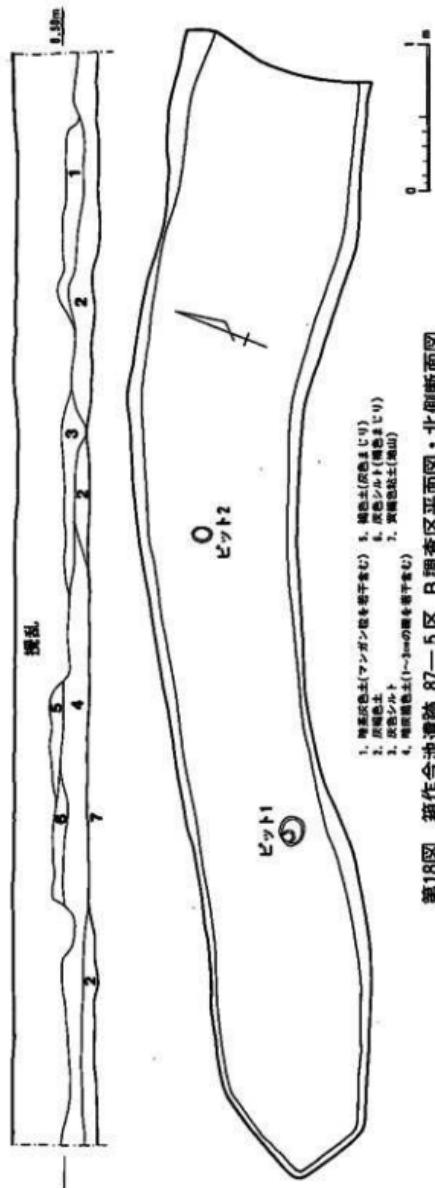
(第20図) 1～4は瓦器塊で、1の内面にはヘラミガキが、2の外面には指圧痕が、3の内面にはナデ調整が施されている。4の内面見込みはヘラミガキが施され、高台は貼り付けによるものである。5、6は瓦器皿で、5の内外面はナデ調整が、6の内面はヘラミガキ、外面にはヨコナデが施されている。7は瓦質の羽釜で、内面ナデ調整、口縁部から外面にかけてヨコナデが施され、体部鋸下には、ヘラ削りがみられる。8は施釉陶器の底部で、壺あるいは甕と思われる。底部は露胎、貫入がはいっている。

(第21図) 1は須恵器甕の体部で、内面はヘラ状工具によるナデ調整が施され、外面上部にはヨコナデ、体部外面にはタタキがみられる。2、3は平瓦の破片で、凸面はハケ調整されている。

(第22図) 1～13は土師器・土師質の皿および



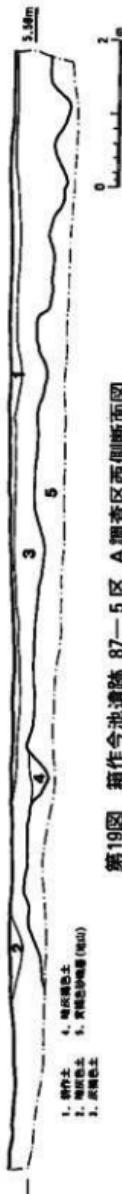
第17図 箱作今池遺跡 87-5区  
B調査区設定図



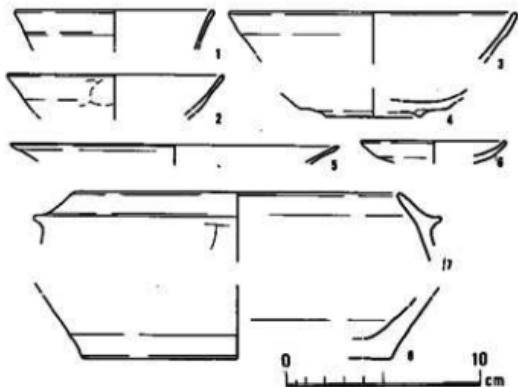
第18図 箱作今池遺跡 87—5区 B調査区平面図・北側断面図

塊である。1、12の内外面にナデ調整が、2の内面にヨコナデがみられる。3、4の内外面にヨコナデ、外面底部に指圧痕がみとめられる。6、11、13の内外面にヨコナデ、7の口縁部から内面にかけてナデ調整、外面下部に指圧痕がみとめられる。8の内外面にヘラミガキ、外面下部に指圧痕がみとめられる。10の内面にヨコナデ、外面にヘラミガキがみられる。14は土師質管状土錐の破片である。15～25は土師器・土師質の壺および蓋の口縁部で、16、20、22、23の内外面にはヨコナデが、19の内面にはタタキ痕が、25の外面には指圧痕がみられる。

(第23図) 1～4は



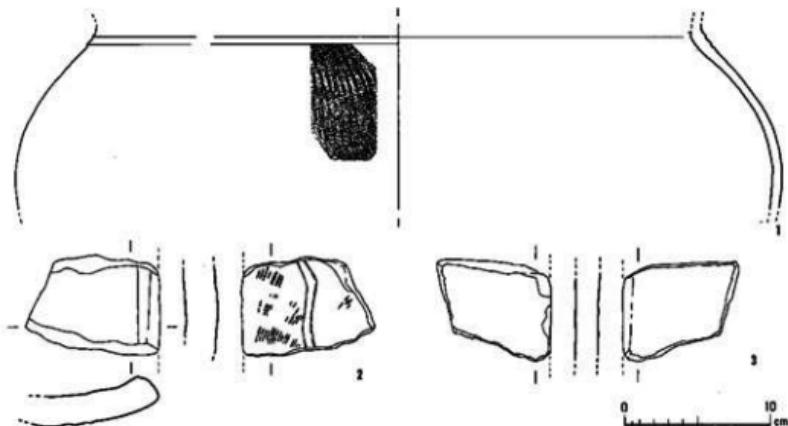
第19図 箱作今池遺跡 87—5区 A調査区西側断面図



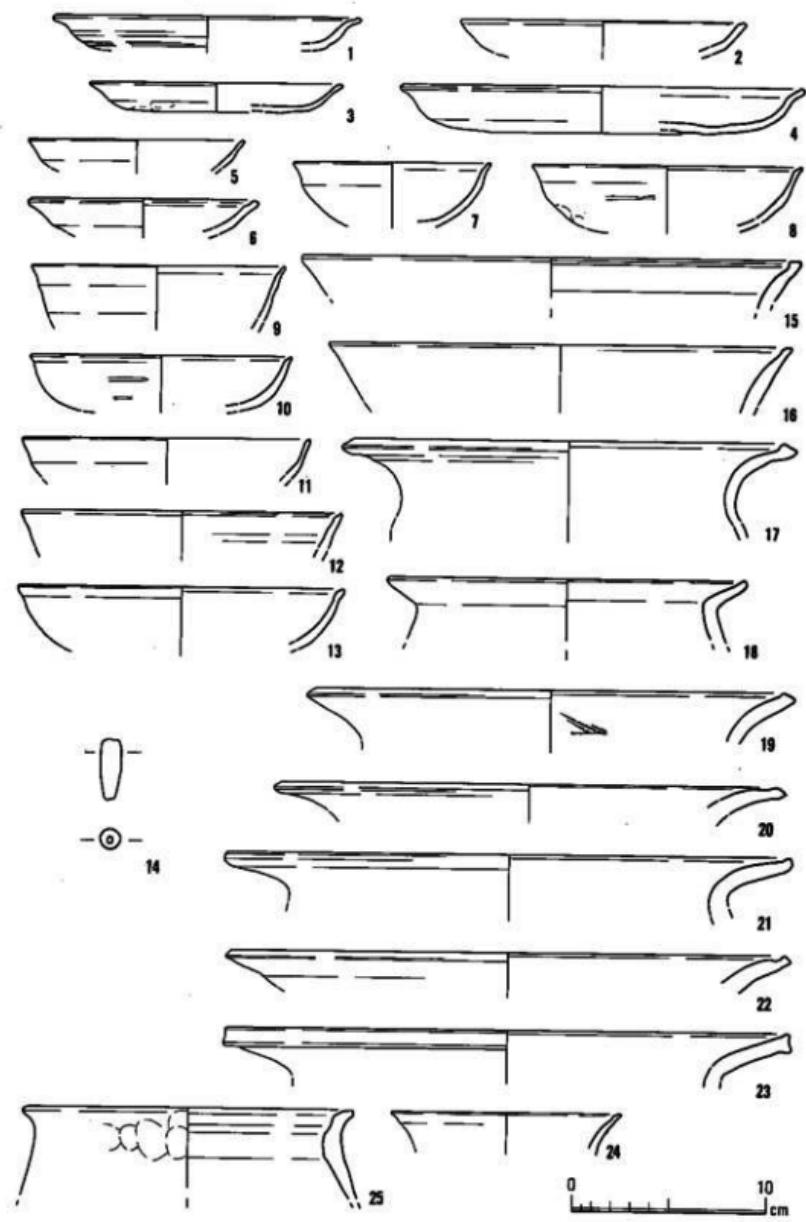
第20図 箱作今池遺跡 87-5区 A調査区 出土遺物

土師質壺あるいは甕の体部および口縁部である。1の内面上部と外面および2の外面にタタキ調整が、1の体部内面および2の外面にはナデ調整が施されている。3、4の口縁部にはヨコナデ調整が、内外面には指圧痕がみられる。5～12は須恵器の壊および壊高台部で、5、6、8～11の内外面に

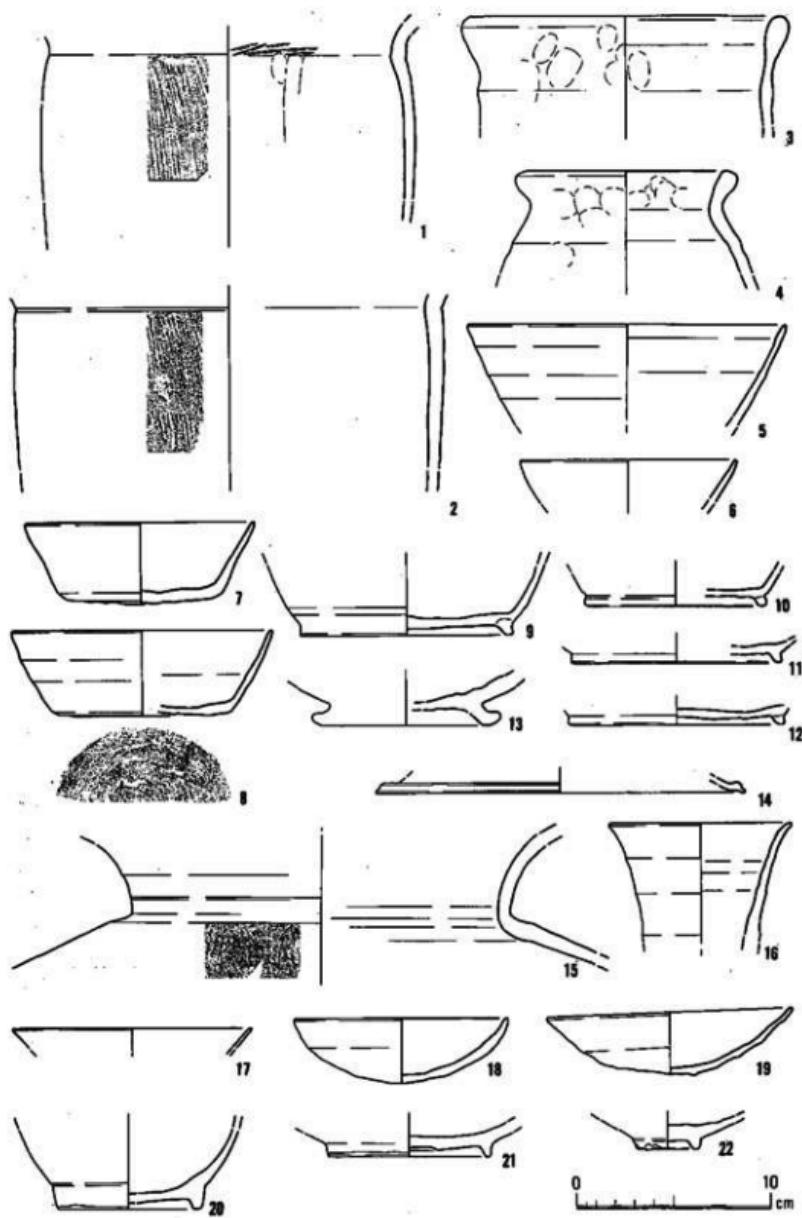
ヨコナデ調整がみられる。9～12の高台は貼り付けによるものである。13は須恵器壺と思われるものの高台部で、貼り付けによる高台部は力強く外反している。外面に自然釉がみられる。14は須恵器の壊蓋で、内外面にヨコナデがみられる。15は須恵器の甕で、体部内面は円弧タタキ、外面はタタキ調整の後それぞれナデ調整され、頸部は内外面ともにヨコナデが、内面に自然釉がみられる。17～19は瓦器塊で、19の外面下部には指圧痕がみとめられ、底部には高台と思われる凸が残る。18、19は口縁の大きさ、高台の退化状態から14世紀後半の



第21図 箱作今池遺跡 87-5区 A調査区 出土遺物



第22図 箱作今池遺跡 87-5区 A調査区 出土遺物



第23図 箱作今池遺跡 87-5区 A調査区 出土遺物

ものと思われる。20～22は磁器の高台部である。20は伊万里焼で、内面および高台底部は露胎している。壺であろうか。22の高台は削り出しによるもので高台内は露胎し、内面見込みには蛇ノ目釉ハギがみられる。

## 88-2区

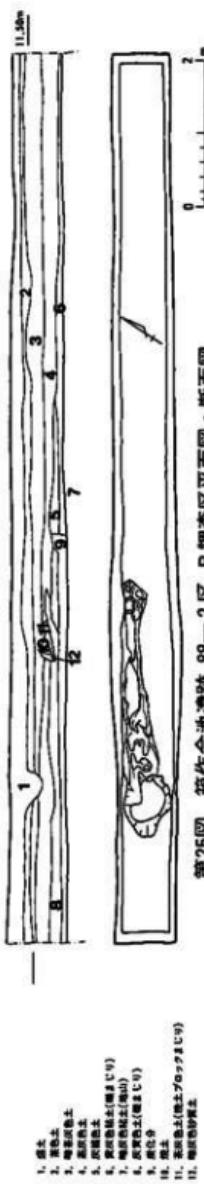
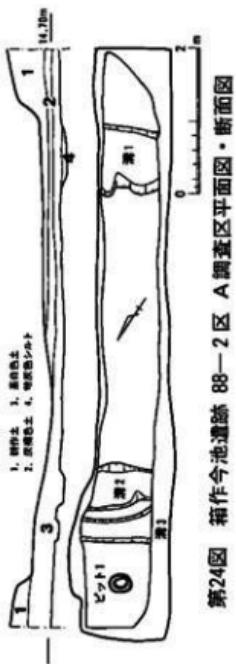
### 1. 位置および調査の概略（第16図）

今回の調査は、道路改修工事に伴う調査で、先述した87-5区に隣接している。面積が比較的まとまっている地区の3ヶ所について発掘調査を実施し、他の小規模な掘削については、立会調査とした。発掘調査のうちC調査区では遺構や遺物を検出しなかったが、A調査区においては若干の遺構が、B調査区では中世期の蛸壺を焼成したと思われる窯跡を検出した。立会調査についても、中国製青磁碗等の遺物が確認された。

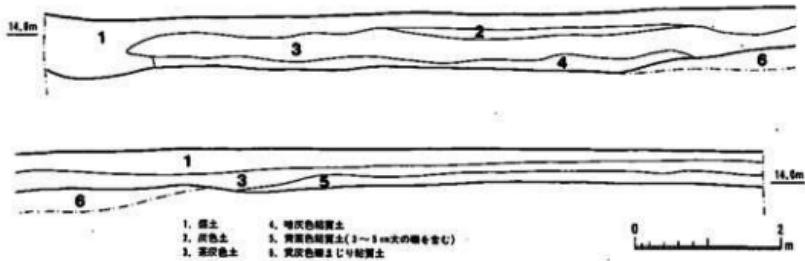
### 2. 遺構（第24・25図、図版6・7・8）

A調査区では、調査区を横断する方向の溝が3状、およびピットが検出された。

B調査区では、先述したように、中世期の蛸壺を焼成したと思われる遺構を検出した。これは長さ約3.5m幅0.4～0.6mの土坑である。地表から10cm程度掘りくぼめ、その中に蛸壺を並べ焼成したものと思われる。遺構内には焼土や多量の炭化物が含まれていた。また多くの蛸壺片も検

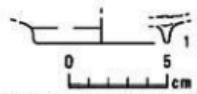


- 1. 砂土
- 2. 黄砂土
- 3. 鹿児島土
- 4. 高砂土
- 5. 沈砂土
- 6. 鹿児島土(漂出土)
- 7. 鹿児島土(漂出土)
- 8. 鹿児島土(漂出土)
- 9. 鹿児島土(漂出土)
- 10. 焼土
- 11. 黄砂土(漂出土)
- 12. 鹿児島土(漂出土)



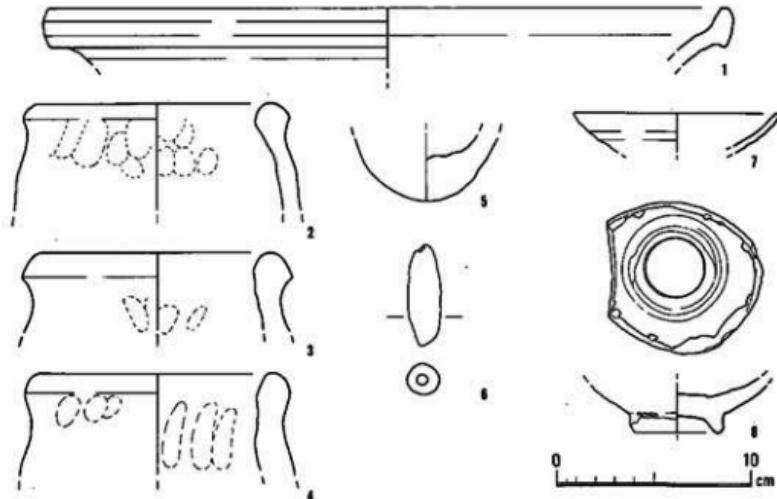
第26図 箱作今池遺跡 88-2区 C調査区断面図

出したが、完形品ではなく、焼成時に破損したものがそのまま廃棄されたものと思われる。各地で確認されている土師器窯跡とほぼ同様のものであろう。しかし蛸壺が焼成されていたと解る窯跡は、この検出がおそらく初めての例であると思われる。この箱作今池遺跡のように漁澇集落の存在が想定されている場所で、窯跡が確認されたことは、生産場=使用場という事になり、当時の漁澇生活を知る上で、非常に興味深いものとなろう。



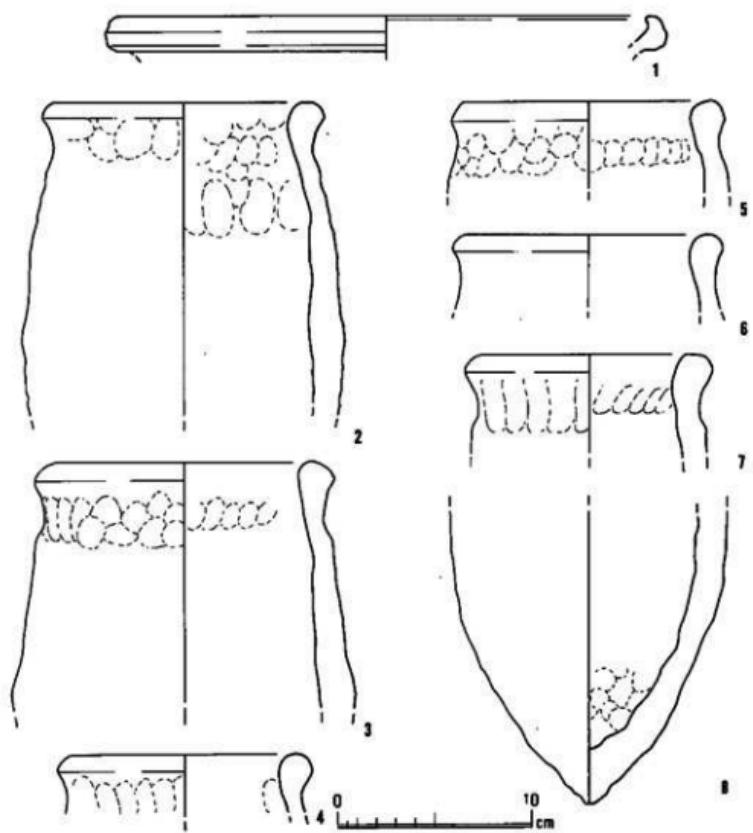
第27図 箱作今池遺跡

88-2区 A調査区 出土遺物 (第27図) 土師器の高台部である。高台部は貼付による。

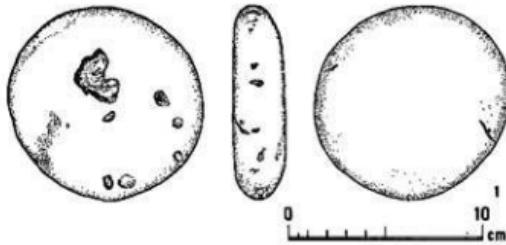


第28図 箱作今池遺跡 88-2区 B調査区 出土遺物

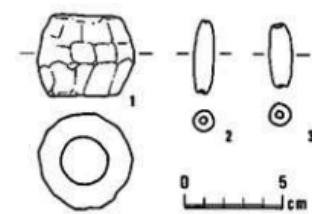
(第28図) 1は東播系須恵質の片口の捏鉢であるが、片口部は大半が欠損のため図化し得なかった。内外面にヨコナデが施されている。2～5は中世期のも



第28図 箱作今池遺跡 88-2区 B調査区 窯跡内出土遺物



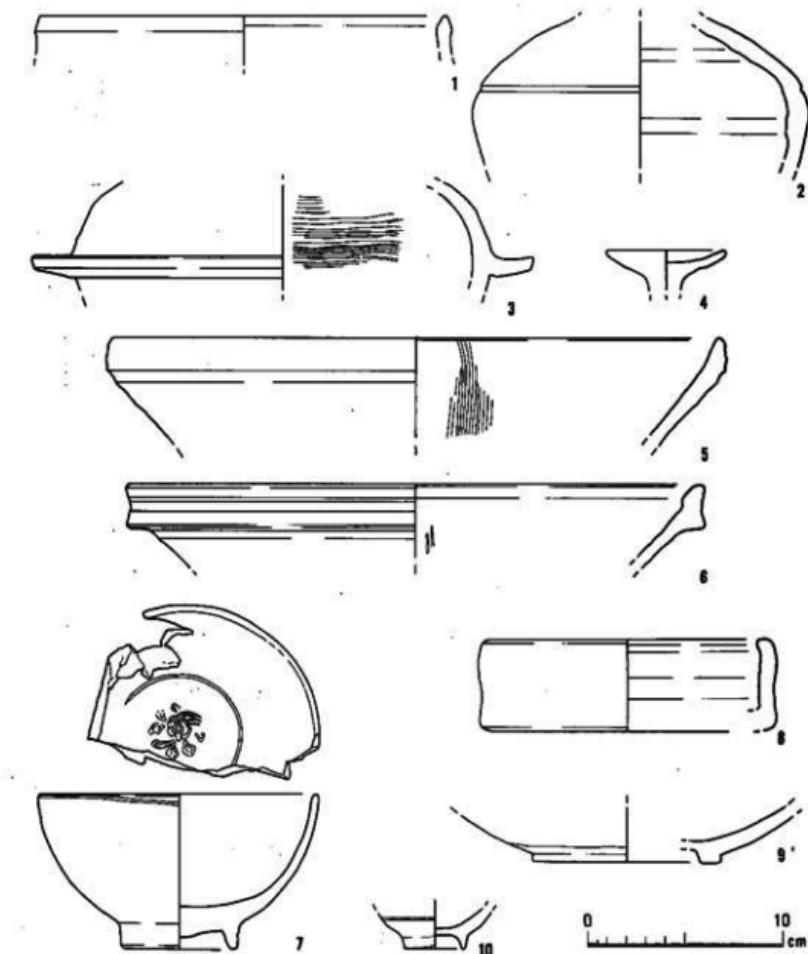
第29図 箱作今池遺跡 88-2区 B調査区 出土遺物



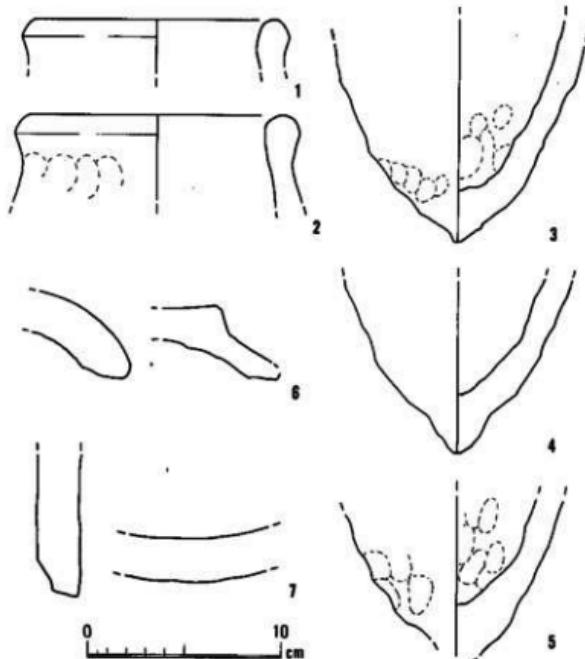
第30図 箱作今池遺跡 88-2区 C調査区 出土遺物

のと思われる土師質の蛸壺で、内外面には指圧痕がみられる。5は底部である。6は土師質の管状土錐、7は土師質の塊である。8は志野の蛇ノ目釉ハギの高台部である。

(第29図) 1は東播系須恵質の捏鉢である。内外面にヨコナデが施されている。2~9は中世期のものと思われる土師質の蛸壺で、内外面に指圧痕がみられる。(第30図) 砂岩製の円礫石器と思われる。磨石であろう。



第32図 箱作今池遺跡 88-2区 出土遺物



第33図 箱作今池遺跡 88—2区 出土遺物

(第31図) 1は陶製の管状土錐で、釉が施されている。2、3は土師質の管状土錐である。

(第32図) 1は土師質の壺の口縁部と思われる。ヨコナデが施されている。2は須恵器壺の体部と思われる。内外面にヨコナデが施され、外面には自然釉がみとめられ、またヘラ状工具による沈線がめぐっている。3

は瓦質羽釜の体部である。内面にハケ目、外面の鍔以上にヨコナデ、鍔下にヘラ削りがみられ、鍔は貼り付けによるものである。4は瓦質の灯明台と思われる。5は瓦質の擂鉢である。体部外面にはヘラ削り調整がみられる。また内面には単位5本の卸目がみとめられる。6は備前焼の擂鉢である。ヨコナデ調整が施されている。7は中国製青磁の碗である。高台内は露胎、高台は削り出しによるものである。また口縁外面に沈線がめぐり、内面見込みに花文が施されている。<sup>鶴井明徳氏</sup>の編年では、15世紀後半をさかのばらないとされている型式のものである。8は陶器、9、10は施釉陶器である。

(第33図) 1～5は土師質の蛸壺である。内外面に指圧痕がみられる。中世期のものと思われる。6は丸瓦の玉縁部、7は平瓦の破片である。

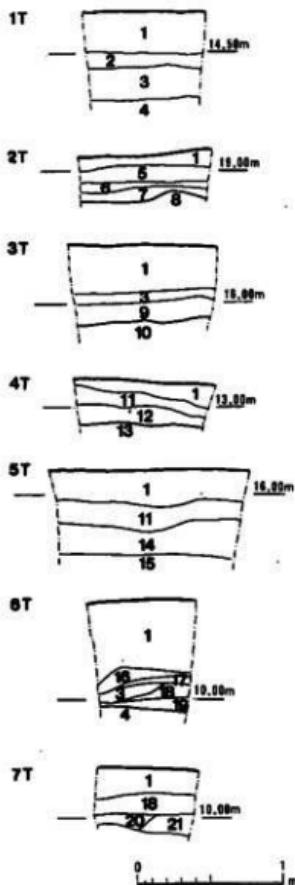
鶴井明徳 「日本出土の明代青磁碗の変遷」 鏡山先生古稀記念古文化論叢 1980年



第34図 箱作今池遺跡 87-1区 トレンチ設定図

### 87-1区 (第34・35図)

本調査は、農業用水関係事業に伴い実施した。事業地内に1m×1m程度のトレンチを7カ所設定し、人力で掘削をおこなった。7カ所のトレンチのうち5~7Tの3カ所が箱作今池遺跡の範囲に含まれている。4、7Tを除く各トレンチから若干の遺物が検出された。遺跡内の6Tからは、中世期の銅壺と思われる土師質土器片が出土した。この他遺跡外にあたる3Tからは、中国製青磁碗の破片が検出され、遺物包含層が認められた。このことから、これまで茶屋川右岸に周知されていた遺跡の範囲が、左岸にも拡がる可能性がでてきた。



1. 新作土
2. 黄褐色土
3. 灰色土
4. 黄褐色粘土(堆山)
5. 墓塚灰色シルト
6. 黄褐色シルト
7. 灰色シルト
8. 墓塚灰色粘土(堆山)
9. 墓塚灰色シルト
10. 黄褐色粘土(堆山)
11. 明灰土
12. 灰色砂質土
13. 墓塚灰色砂質土(堆山)
14. 墓塚灰色シルト
15. 青褐色粘土
16. 明灰土
17. 明灰土
18. 黄褐色土
19. 墓塚灰色シルト
20. 墓塚灰色シルト
21. 灰褐色シルト

第35図 箱作今池遺跡 87-1区  
トレンチ断面図

## 5節 正方寺遺跡

### 88-1区

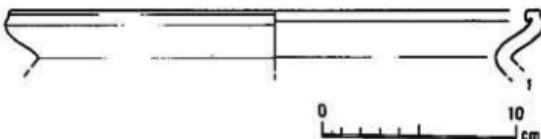
#### 1. 位置および調査の概略（第37図）

正方寺遺跡は、本町の西部に位置する。昭和62年度に実施された分布調査により周知された。この分布調査では、土師質土器片等が採集されている。

調査は、下水道管埋設工事に伴い、事前に行われた。1m×1m程度のトレーニチを6カ所設定し、調査を実施した。いずれのトレーニチもが過去に掘削を受けており、遺構、遺物包含層は確認できなかった。下記に示すとおり、6Tより遺物が1点出土したが、流れ込みであろう。

#### 2. 遺物（第36図）

土師質壺の口縁部である。出土遺物は、この一点のみであった。



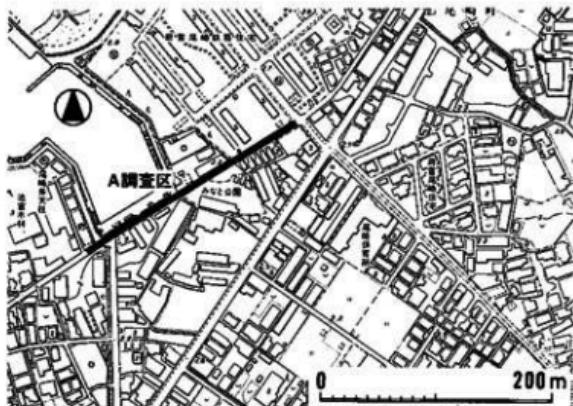
第36図 正方寺遺跡 88-1区 出土遺物



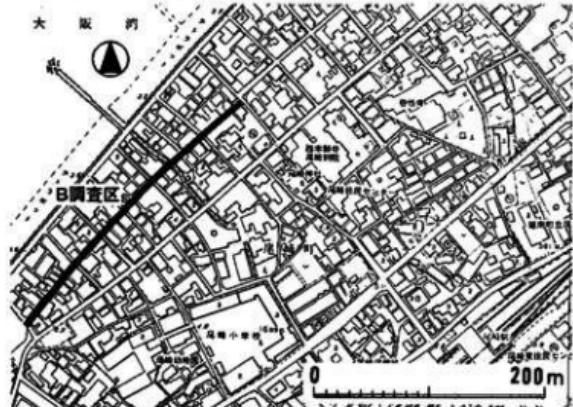
第37図 正方寺遺跡 88-1区 トレーニチ設定図

## 6節 旧 街 道

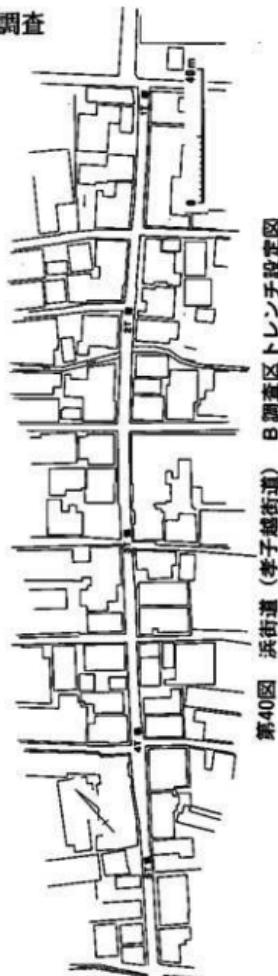
阪南町には、一般に官道として成立した紀州街道（熊野・小栗街道）をはじめ、浜街道（孝子越街道）、信長街道、井関街道、箱作峠越という5本の旧街道が知られている。今回の報告は、昭和63年度に行われた浜街道と信長街道の調査についてである。両調査とも、水道管理設工事に伴う事前調査である。



第38図 浜街道（孝子越街道） A調査区位置図



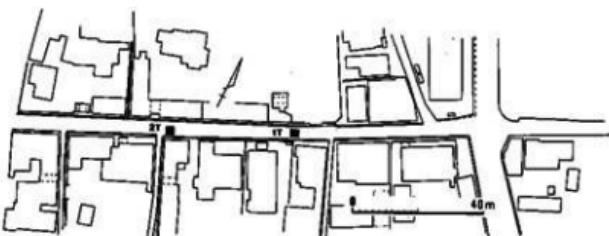
第39図 浜街道（孝子越街道） B調査区位置図



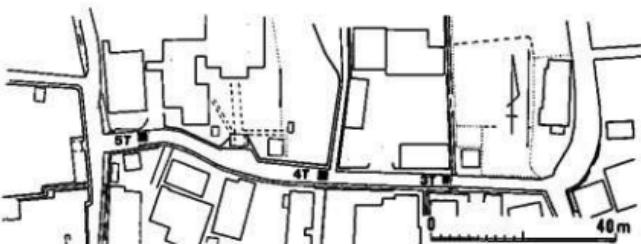
第40図 浜街道（孝子越街道） B調査区トレーンチ設定図

### 浜街道（孝子越街道）（第38・39・40図）

浜街道は、現在の泉佐野市鶴原付近で紀州街道と分れ、旧佐野村・樽井・尾崎等を経、孝子峠を越えて紀州に至る街道である。今回の調査は、近世期にはすでに繁栄していた尾崎地区内で行われた。特筆するような遺物等は検出できなかったが、B調査区の3、4Tにおいて、もとの砂地の路面の上に粘土を敷き、瓦を敷きつめた跡を検出した。歩き易くしたのであろう。瓦から明治時代以降のものと考えられる。



第41図 信長街道 A調査区トレーンチ設定図



第42図 信長街道 B調査区トレーンチ設定図



第43図 信長街道 調査区位置図

## 第3章 まとめ

以上、昭和62～63年度に実施した調査の概要を示した。冒頭にも触れたように、比較的小規模の調査ばかりであったにもかかわらず、箱作今池遺跡で中世期の蛸壺焼成遺構を検出したのをはじめ、数々の成果があった。

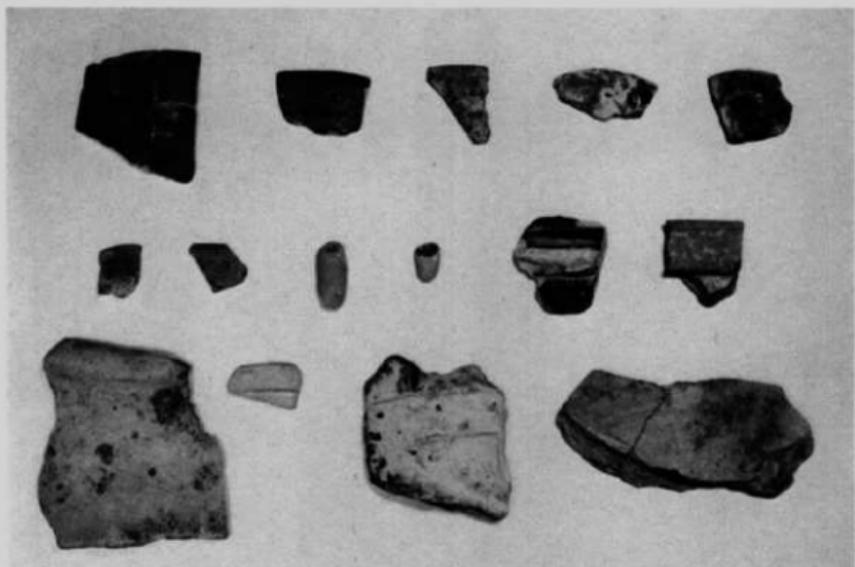
特に箱作今池遺跡では、以上の他、中国製青磁碗の破片等を各所で検出したが、これは中世期において、この箱作の集落が単に半農半漁的な性格を持ったものだけではなく、貿易等に関係した有力者の存在が想定できる。また、蛸壺の焼成遺構の検出によって、蛸壺の所有者（使用者）＝生産者（工人）という可能性が示されることになり、分業体制の未成立が考えられる。

このように、これらの調査では、様々な成果を得ることができた。しかし、発掘調査はあくまでも記録保存であり、遺跡の破壊ということに対する最終手段であることを忘れてはならない。今後も、阪南町では開発行為が増加するものと思われるが、少しでも多くの人々に、埋蔵文化財に対する理解を得、現状保存できることを努めたい。

最後に、調査に御協力下さった方々、大阪府教育委員会、泉南・泉北の各教育委員会の方々に感謝いたします。また、調査に参加した清水恭子、和田旬世、井上祥子、松下庄一、石原圭昭、谷口貴彦、南 憲治、小林 修、片桐良寛、坂井眞弓、東 公美、矢倉春子、森 一恵、西畠昭男、美谷 誠、白井貴子、竹口和美、小林克子、桑野美穂、上野幸代、森谷宣夫、伊與部希香、福井正俊、高梨 裕、森原 洋の諸氏にも感謝する。



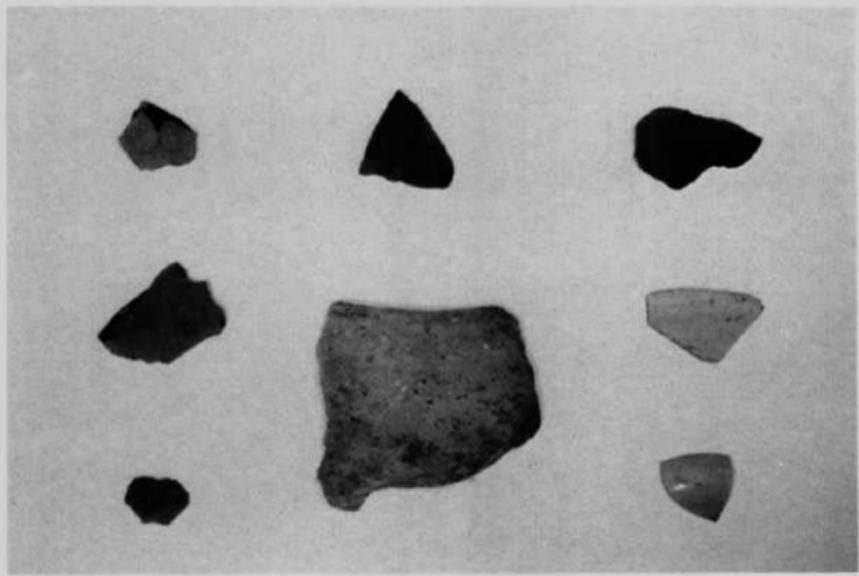
田山遺跡全景（南東より）



田山遺跡87-1区 出土遺物



調査区全景（北より）



出土遺物



調査区全景（西より）



出土遺物

図版4 箱作今池遺跡87-5区 遺物出土状況



図版5 箱作今池遺跡87-5区 B調査区全景・A調査区出土遺物



B調査区全景(東より)

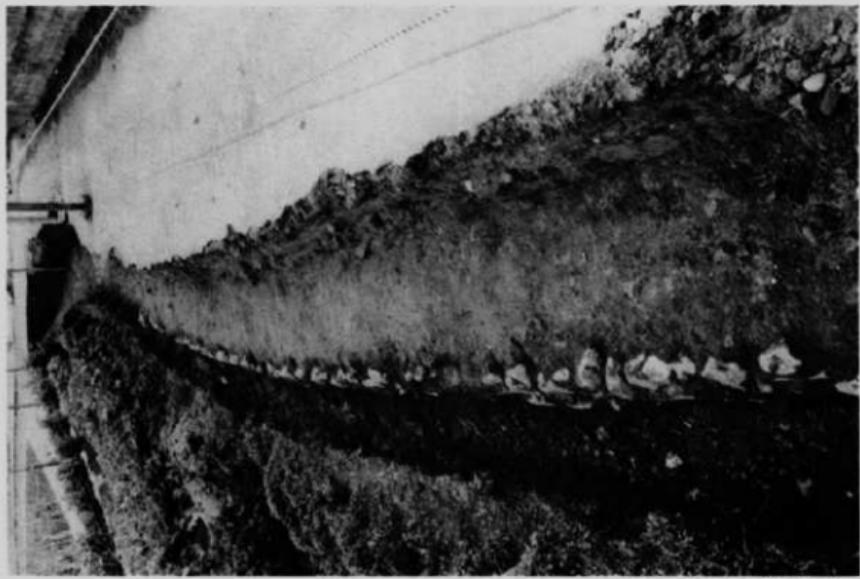


A調査区出土遺物

図版6 箱作今池遺跡88-2区 A調査区全景・C調査区全景



A調査区全景（北西より）



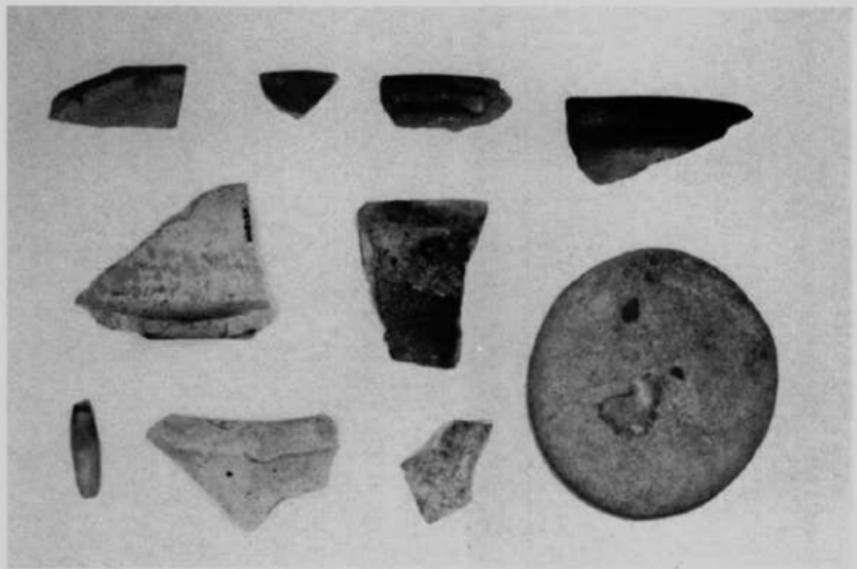
C調査区全景（北西より）

圖版 7 箱作今池遺跡 88-2 区  
B 調査区 鉛壺燒成遺構





B調査区全景（南西より）



出土遺物

阪南町埋蔵文化財報告Ⅸ

阪南町埋蔵文化財発掘調査概要Ⅳ

平成元年3月

発行：阪南町教育委員会社会教育課  
大阪府泉南郡阪南町尾崎町35の1

印刷者：有限会社山村印刷所  
貝塚市近木1483の8